

## 共通論題

### アジアのインフォーマル経済と社会保障のフロンティア

#### A New Frontier of Informal Economy and Social Security System in Asia

近年、アジアの社会保障制度に関する調査・分析、議論が増加している。これは、アジアでは、高齢化が進んできたこと（今後のスピードが速いこと）、所得格差の拡大傾向が顕著になってきたこと、国際社会が持続的成長目標として包摂的な成長（**inclusive growth**）や包摂的社会（**inclusive society**）の下に国民全体を対象とした社会保障制度整備を押し進めていることなどに影響を受けている。その一方で、アジアの社会保障の研究は、これまで欧米の経験やフレームワークを用いた分析が多くなされてきたが、その限界も見えてきた。アジアを取り巻く環境は、欧米の経験とは大きく異なり、社会保障に関する新しい分析軸が求められているといえる。

アジアにおける社会保障に共通する課題の一つは、その対象外にある人たちにどのような保障を提供できるかである。もちろん、既存の制度に取り込む、あるいは別途新しい制度を構築するなど各国によって対策は異なろう。この議論を深めるには、制度の対象外にある者の実態把握が重要である。そこで第1の視座としてインフォーマル経済を取り上げた。インフォーマル経済は、経済成長とともに縮小すると考えられてきたが、実際にはその領域は拡大し、多様化している。先進国の非正規雇用という問題をも包括できる存在となってきた。第2の視座は、国民皆社会保障制度のひとつとしてのベーシックインカム 新しい意味である。これも欧米とは異なった文脈、不完全就労への対策、つまりインフォーマル経済を取り込む手法として韓国で注目されるようになっている。

そこで本セッションでは、インフォーマル経済と社会保障を掛け合わせ、アジアを考える新しい視点を提示する。これは、きわめて地域研究的な作業であり、新しいアジア研究の地平線を切り開くものとする。積極的な議論を期待したい。

司会：澤田ゆかり（東京外語大学）

報告1：大泉啓一郎（日本総研）「アジアの社会保障の盲点：人口オーナス論再考」

報告2：遠藤環（埼玉大学）「インフォーマル経済の新段階：タイを事例に」

報告3：金成垣（明治学院大学）「インフォーマル経済とベーシックインカム：韓国を事例に」

討論者1：澤田ゆかり（報告1に対して）

討論者2：大泉啓一郎（報告2と3に対して）